

Under the Same Blue Sky

同じ青い空の下で

2009-

インスタレーション/プロジェクト/印刷物

世界各地 (50カ所以上*) に設置

ステッカー: サイズ可変、最大21x30cm*

印刷物: 10x380cm*

*2018年時点

旅先で独り食べた朝食の食べかすを虹に見立て、虹を空に戻すべくその写真を窓に設置する作品、『朝食後にかかる虹(Rainbow after My Breakfast)』(2009年、インスタレーション)から派生した、現在進行形プロジェクト。世界中の遠くに住む友人たちにインスタレーションの素材を郵送してかれらの家の窓に設置してもらい、その記録写真を集めて、ひと続きの風景として連ねていっている。



(上) 印刷物のインスタレーション風景(2016年、アーツ前橋)
友人に郵送された手紙とステッカーが左横に添えられている

(下) プロジェクトの写真のコレクションがすべて
一つの風景としてつなげられたアコーディオンブック



朝食後にかかる虹

旅の途中、ホテルで独りの朝食をとり終えたとき、目の前に虹が現れた。食器の上に残された果物の皮。眼に映る風景を共有すべく、携帯電話のカメラで撮影した写真を彼方に住む数人の友だちに送信した。そして、その「虹」を空に戻すことにした。

窓から見える風景とつながるように、そして時間・空間・心理的な距離のあるもの間にも橋を架けるように、果物の皮を印刷した透明のステッカーを窓に貼り付けた。

虹のあとの虹

この作品の背景にある物語と設置方法、記録写真を返送してくださいという願いを記した手紙を添えて、その「虹」のステッカーを世界各地に暮らす友だちに送り始めた。さまざまな日常の眺めとともに収まった「虹」の写真は増え続け、そのコレクションをアコーディオン・ブックにして展示するとともに、ネット上のアルバムやスライドショーを通して公開している。

ひとつの景色

アコーディオン・ブックでは、すべての写真をひと続きの風景として提示している。水や屋根、夕焼けの色調など、それぞれの「虹」の背景の中に同じ、もしくは似ている要素を見つけ、それらを一つひとつ繋いでゆくと、ひとつの景色が水平に広がっていく。



(左上) オリジナルとなった、朝食後の皿に残された果物の皮の写真
(右上) ブラジル・リオデジャネイロに住む友人から送られてきた記録写真
(左下) イスラエル・テルアビブに住む友人から送られてきた記録写真